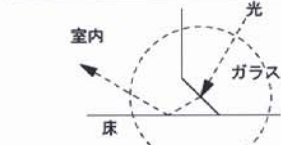
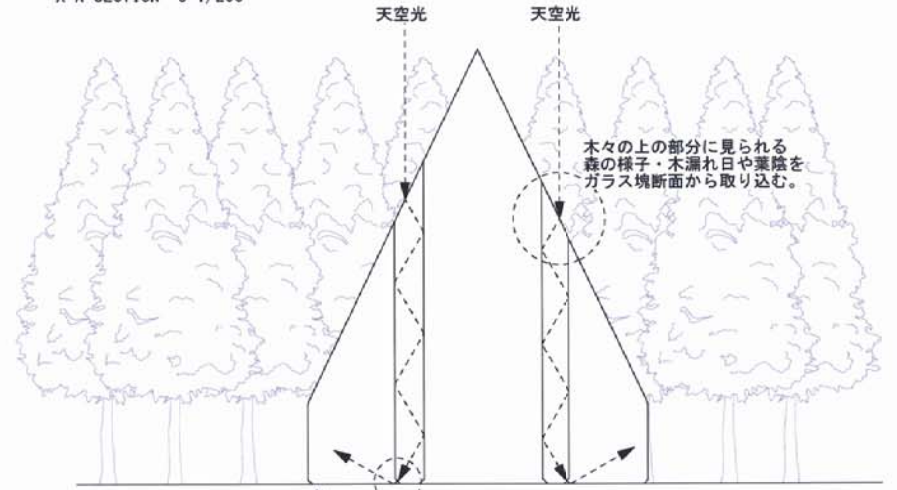
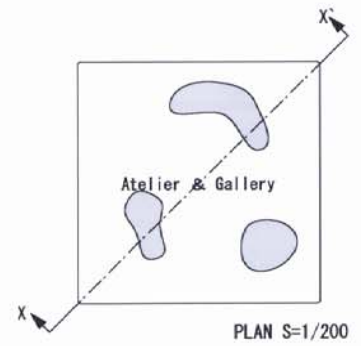


曲面を持つガラス塊には、入射した光を局部的に放出する特性がある。この特性（集光模様またはコースティクス）を利用して、自然光によって照度が与えられる空間を提案をする。

X-X' SECTION S=1/200



屋根面から入射した光は、ガラス塊内で反射を繰り返し室内に取り込まれる。高木に囲まれた暗い森の中であっても、自然光による適度な照度を得ることができる。



### 森の中の小さな明るい場所

静かで深遠な森の中のほの暗さは、思索に耽ったり、冥想したりするには適していると思う。しかし、何か活動を行うには程良い明るさが必要になる。

私は森の奥深くにガラスの特性を利用することで、作者のイメージを森の環境が育むような創作の為に空間をアトリエ/ギャラリーとして提案する。

森の中を歩いていくと、ほの暗さの中にぽつんと小さな明るさを持つこのアトリエは現れる。中に入ると屋根面からガラス塊を通して入ってくる写像が、普段森に入ってもなかなか見ることのない森の上部の様子を建築の内部に伝えている。

それは、例えば木々を飛び交う鳥やリスのような森に棲む小動物の様子であるかもしれないし、木の芽の芽吹きや一番早く色づく木の葉の様子であるかもしれない。

森の茂みの上にある空の様子の変化は建築内部に様々なコースティクスを生み出し、それはまるで木漏れ日のようである。

